

知床の森から



北海道森林管理局北見分局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



(写真：海別岳)

神奈川県南足柄市森林組合の皆さんが来訪 「知床の森林生態系」などを学習

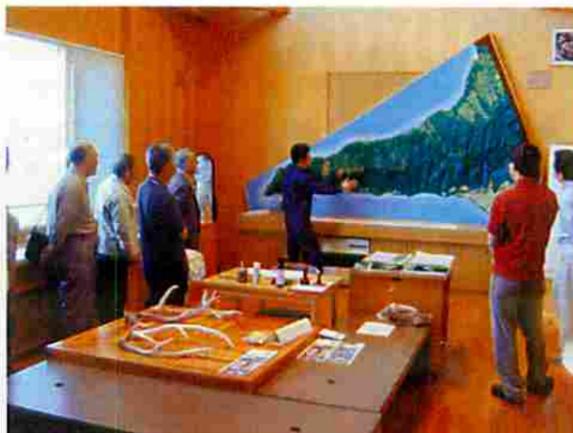
6月3日(火)に、神奈川県から南足柄市森林組合の組合員17名が来訪されました。

午後3時に一行がセンターに到着すると、1階の展示室において、所長から、

① 半島の立体模型を用いて、国有林、民有林の位置関係、森林生態系保護地域・緑の回廊・国立公園の具体場所

② 森林環境情報システムの端末を用いて、知床国有林の現在の映像

などについて説明した後、2階のセミナー室に移り、センターの業務内容、森林生態系保護地域、代表的な樹木、知床にいる動物などについて、映像を交えて説明しました。



森林の位置関係を説明しました

羅白岳の山開きが開催される

7月6日(日)に、全国で最も遅いと言われる羅白岳の山開き(安全祈願祭)が斜里町側登山口(木下小屋)で行われました。当日は、登山者、地元斜里町山岳会会長外関係者、羅白町側が急きょ延期となったため駆けつけた羅白町関係者など約50人が参加し、今後の安全、無事故を祈願しました。

なお、羅白岳は日本百名山の一つで、全国から登山愛好家が訪れ、頂上を目指したり、硫黄山への縦走にチャレンジしています。



神事により安全を祈願しました

斜里町植樹祭

～600本のアカエゾマツを植えました

5月31日(土)に、町の植樹祭が開催されました。

今年度は、会場を峰浜地区の国有林に移し、町内から約200名の方々が参加し、それぞれ手に鍬やスコップを持ち、600本のアカエゾマツを植えました。

また、地元から、峰浜小学校「自然愛護少年団」の皆さんが参加し、「美しい知床の自然をみんなの手で未来へと引き継いでいきましょう」と力強く誓いの言葉を述べていました。



力を合わせて植えました

知床は今

知床は、「えぞ梅雨」を終えようとしています。天気のぐずつく期間が短かく、冷涼なのが特徴です。

山々のトドマツ、ミズナラ、イタヤカエデなどの木々は、水分を得て美しい若葉を一層きらきらと輝かせます。海岸の砂丘に咲きほこっている橙色のエゾスカシユリ、紅紫色のハマナスなどの花の色は、より鮮明さを増しているように見えます。また、山にはいるとサルメンエビが約1ヶ月間、目を楽ませてくれました。

そして、その原生林の中や海岸などを森林浴で歩くと、樹木や花の香りが漂ってきて、私たち人の気分は良くなります。

このような豊かな自然を求めて、多くの人が知床を訪れる時期の始まりであり、初夏であることを感じさせます。



一面に咲きほこるエゾスカシユリ



色鮮やかなハマナス



秘かに咲くサルメンエビネ

今年度もよろしく

第47回 森とのふれあい

「自然観察と体験林業（炭焼き）」を開催

今年度最初の「森とのふれあい」を、6月15日（日）に、開催しました。

参加者は、多数の応募者の中から抽選で選ばれた北見市のほか端野町、網走市からの男性6名、女性18名の計24名です。

午前中は森林センター敷地内に設置したドラム缶型の簡易炭窯で炭焼き体験をしました。今回炭にする木は、林道に被いかぶり邪魔になり切られた木です。

まず鋸で原木を切るところから始め、シュッシュとリズム良く木を切る手慣れた方もいました。次に原木を窯に入れ、粘土で窯口を塞ぎ、原木へ着火させる口焚きを行いました。口焚きで原木に着火する際、ライターにかわり、今回は火起こし道具でチャレンジしました。初めて火起こし道具を使う方ばかりでしたが、火起こしを始めて5分ほどで大きな火種が出来、それを木くずに移し息を吹きかけるとあっという間に



炭材を窯に入れていきます

大きな炎があがり、「うおー！」という歓声が上がりました。その勢いもあり、参加者は次々に火起こしにチャレンジしましたが、炎を立ち上げるのは難しいようでした。



火起こしにチャレンジ

無事に原木に着火した後、炭の用途について、畑や庭に炭を入れると良いことや冷蔵庫や下駄箱に炭を入れたら臭い匂いが消えたこと、また花瓶に入れると花が長持ちすることなどの体験談をお話しました。参加者の方々から、「炭の効用を実際に試してみます」との声がありました。

午後からは、知床峠に向かう途中にある自然観察教育林へ移動し、幻の沼と呼ばれる「ボンホロ沼」を一周する自然観察を行いました。身支度を整えた一行は、所々で倒木の役割やキノコの役割等の説明を受け、幹周り3mのミズナラの径を計ったり、クマガエラが餌を取るために空けた枯れ木や、トドマツに付いた熊の爪痕などを観察しました。



このミズナラの直径は1m以上ありました

今年は沼に水があり、朝方曇っていた空も観察会の始まる頃には青空となり、水面に映る羅臼岳を望みながら森の爽やかな空気に浸りコース約3kを歩き、快い汗を流し帰途につきました。皆さんには、あらかじめ焼いておいた炭をおみやげとして持ち帰ってもらいました。

第65回レクリエーション・in知床

『夏の森に轟きの滝を探して』を開催

今年度最初の「レクリエーション・in知床」を、7月9日（水）に開催しました。

今回参加していただいた方は、抽選で選ばれた、北見市のほか網走市、留辺蘂町からの男性3名、女性14名の計17名です。ご夫婦2組の外は主婦の方がほとんどでした。

今回の目的地である「轟きの滝」は、幌別川にある落差10mほどの滝で、一般市民の方が見る機会はほとんどありません。



樹木の説明を聞いています

当日は、10時過ぎに現地に到着し、①万一熊に出会った場合の対処法、②蜂の対処法、③ウルシかぶれに注意、④ダニに注意などの注意・説明を受け、準備体操で体をほぐした後、一列になり、林内に分け入りしました。入ってすぐに、「何だ、ササかきは短いじゃない」との声が上がりました。国道から林内を見ると、高さ1mほどのクマイザサがうっそうと生えているように見えるので、そう思われるのも仕方ありません。

途中、ミズナラ、イタヤカエデ、トドマツ、イチイなどの特徴、用途、名の由来を職員から聞き、ゴゼンタチバナ、マイヅルソウ、オオヤマフスマなどの植物を観察しながら、30分程でボンホロ沼に到着しました。残念ながら、水無しのボンホロ沼跡になっていました。

小高い通称「馬の背」を過ぎ、幌別川に向けて坂を下っていきました。「これだけ下るってことは、帰りは延々と登りってことだな〜」とのため息まじりの声も出ました。

オホーツク圏では珍しい「エゾユズリハ」群落を眺めつつ、足元に十分注意しながら、幌別川にたどり着きました。眺瀑台から、勢いよく水を落としている「轟きの滝」を堪能し、昼食をとりま



クマガエラの食痕を見つけました

した。昼からは、川辺に降り、澄んだ水に触れ、その冷たさを感じ取りました。「魚がいるぞう」との声に、すぐさま人だかりが出来ました。よく見ると、ヤマメが10匹ほど泳いでいました。

ふもとはこのところ連日25度を超えていましたが、ここは知床の森林の中、ひんやりとした空気が漂い、気分を十分にリフレッシュできました。そのせいか、帰りの坂も思ったほど疲れることもなく登りきり、約4時間の自然散策を終了しました。



針広混交林、羅臼岳を背景に記念写真